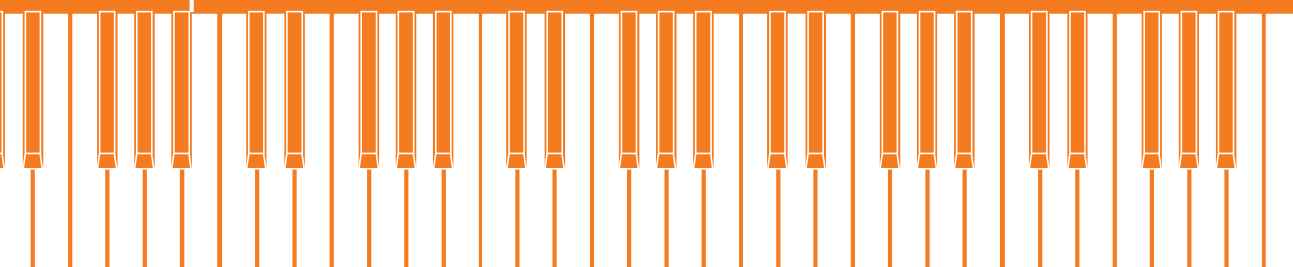




学校用オルガン

SE3000

取扱説明書



ごあいさつ

このたびは、ヤマハ学校用オルガン SE-3000 をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
学校用オルガンSE-3000は、楽器づくりの経験豊かなヤマハが最新の技術を駆使し、指導用オルガンの一層の充実をめざして開発した画期的なオルガンです。

ご使用にあたりましては、この取扱説明書を一読のうえ、SE-3000の機能を充分にご活用いただき、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お読みになった後は大切に保管してください。わからないことや不具合が生じた時、きっとお役に立ちます。

主な特長

1. 美しくクリアな音色
音づくりにヤマハ独自のAWM2音源方式を採用。
美しくクリアな音色を実現しました。
2. XG 音色を採用した多彩な音色
内蔵音色はパネル音色、GM 音色合わせて計 128 音色。また、MIDI 音源として市販の XG 音色対応のデータ曲集も再生することができます。(XG 音色は計 480 音色)
3. 演奏の幅を広げるキーボードパーカッション
ドラム、シンバル、トライアングルなど、9 セット各 61 音色のキーボードパーカッションを採用。
(XG 打楽器音色は計 162 音色)
4. ソングレコーダー（シーケンサー）を内蔵
内蔵メモリーを使用して、1トラック分の演奏を録音・再生することができます。録音データはバックアップバッテリーにより、保存されます。
5. 教室のすみずみまで届く豊かな音量
アンプは 15W × 2。12cm フルレンジスピーカーの豊かな音が響きます。
6. メトロノーム、リズムなど豊富な機能を搭載
さまざまな場面での活用を考え、便利な機能を搭載しました。
7. 接続端子を使用して多彩な演奏を演出
TO HOST 端子の装備によりパーソナルコンピュータと直接接続して演奏できます。



GM (General MIDI)

General MIDIは音色配列やMIDI機能の一定の基準で、GMと略称で呼ばれています。

GMシステムレベル1に対応しているので、市販のGM対応のデータ曲集を再生することができます。



XG

XGはGMを大幅に拡張し、表現力豊かなデータ再生、編集を実現するヤマハ独自の規格です。

市販のXG対応のデータ曲集を再生することができます。

目 次

安全上のご注意	4	ソングレコーダーの操作	15
各部の名称	6	ソングについて	15
操作と機能	7	ユーザーソングとデモソング	15
基本的な操作	7	メモリーの容量	15
電源ボタン	7	メモリー内容の保護	15
全体音量レバー	7	バックアップバッテリーについて	15
音色の選択	7	ソングの再生のしかた	16
パネル音色ボタン	7	再生のしかた	16
GM 音色ボタン	8	デモソング一覧	16
GM 音色一覧	8	再生モード表示ランプ	17
打楽器ボタン	9	再生音量の調節	17
打楽器音色一鍵盤対応表	9	テンポの変更	17
効果機能	10	繰り返し再生のしかた	18
移調	10	録音のしかた	19
チューニング	10	曲を最初から録音する場合	19
ピブラート	10	演奏と同時にリズムスタイルを録音する場合 ..	20
リバーブ	10	曲の途中から録音する場合(パンチイン録音) ..	20
コーラス	11	外部からの演奏情報を録音する場合	21
リズム機能	11	演奏データの消去のしかた	21
再生 / 停止	11	録音に関する注意	21
スタイル	11	初期化のしかた	22
音量	12	全てのバックアップデータと	
テンポ	12	ユーザーソングを初期化	22
拍子	12	全てのユーザーソングを初期化	22
メトロノーム	12	指定したユーザーソングを初期化	22
再生モード表示	12	MIDI について	23
各ペダルの操作	13	MIDI とは…?	23
エクスプレッションペダル	13	接続方法について	23
サステインペダル	13	MIDI 設定	23
外部入出力端子	14	MIDI 送信チャンネルの設定	23
ライン入力端子	14	MIDI クロック外部 / 内部の選択	23
ライン出力端子	14	MIDI コントロールの ON/OFF	24
ヘッドホン端子	14	プレスコントロール受信の ON/OFF	24
サステインペダル端子	14	鍵盤トランスポーズの ON/OFF	24
MIDI IN/OUT	14	バルクダンブ受信の ON/OFF	25
TO HOST 端子	14	バルクダンブ送信	25
HOST SELECT スイッチ	14	バルクダンブについて	26
		TO HOST 端子について	27
		仕 様	28
		MIDI インプリメンテーションチャート	29
		メッセージ一覧	31
		故障かな? と思ったら	31

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表記について

⚠ 記号は、危険、警告または注意を示します。

🚫 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告 この表示内容を見つけた場合は、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

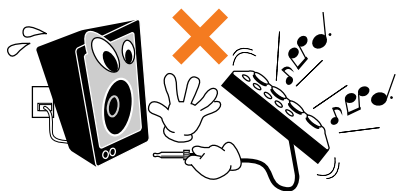
- | | |
|---|---|
| <p> この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または別紙のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。</p> <p> 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。</p> <p> 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または別紙のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。</p> | <p> 電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。</p> <p> 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。</p> <p> 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。</p> |
|---|---|

⚠ 注意 この表示内容を見つけた場合は、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

- | | |
|---|---|
| <p> 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。</p> <p> 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。</p> | <p> タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。</p> <p> 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。</p> |
|---|---|

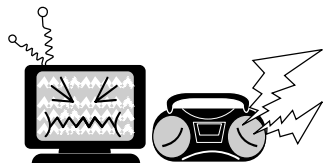
ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ❌ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

- ❌ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ❌ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

- ❗ 2人で静かに運びましょう。
本体を移動する時には、引きずったり、押したりしないで、大人2人以上で静かに運びましょう。

- ❌ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

- ❌ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

- ❌ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

- ❌ 本体を壁につけない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。

- ❌ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



- ❗ オルガン付属の専用椅子、または別にお求めのオルガン椅子は、オルガンの演奏用以外に使用しない。

- オルガンの椅子を遊び用具や踏み台にすると、椅子が転倒したり壊れたりして、事故につながるおそれがあります。
- 同時に二人以上で使用すると、姿勢や椅子に無理が生じ、事故につながるおそれがあります。オルガンの椅子は二人以上で使用しないでください。
- 椅子の脚はボルトで締め付けてあります。長い間使用していると、ゆるんでくることがありますので、ときどき締め直してお使いください。

バックアップバッテリーについて

この機器はバックアップバッテリー(リチウム電池)が内蔵されていますので、電源コードがコンセントから外されても、内部のソングデータは記憶されています。バックアップバッテリーがなくなると内部のデータは消えてしまいますので、すぐにデータを保存し、お買い上げの楽器店または別紙のヤマハ電気音響製品サービス拠点にバックアップバッテリーの交換をお申し付けください。

- ❌ バックアップバッテリーは自分で交換しない。
感電や火災、または故障などの原因になります。バックアップバッテリーの交換は、必ずお買い上げの楽器店または別紙のヤマハ電気音響製品サービス拠点にお申し付けください。

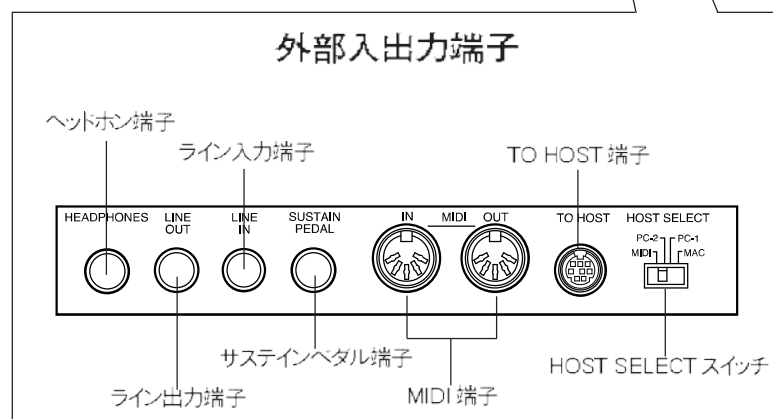
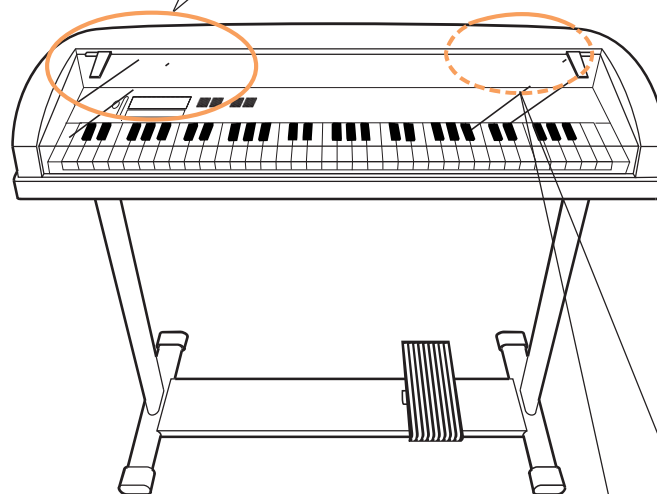
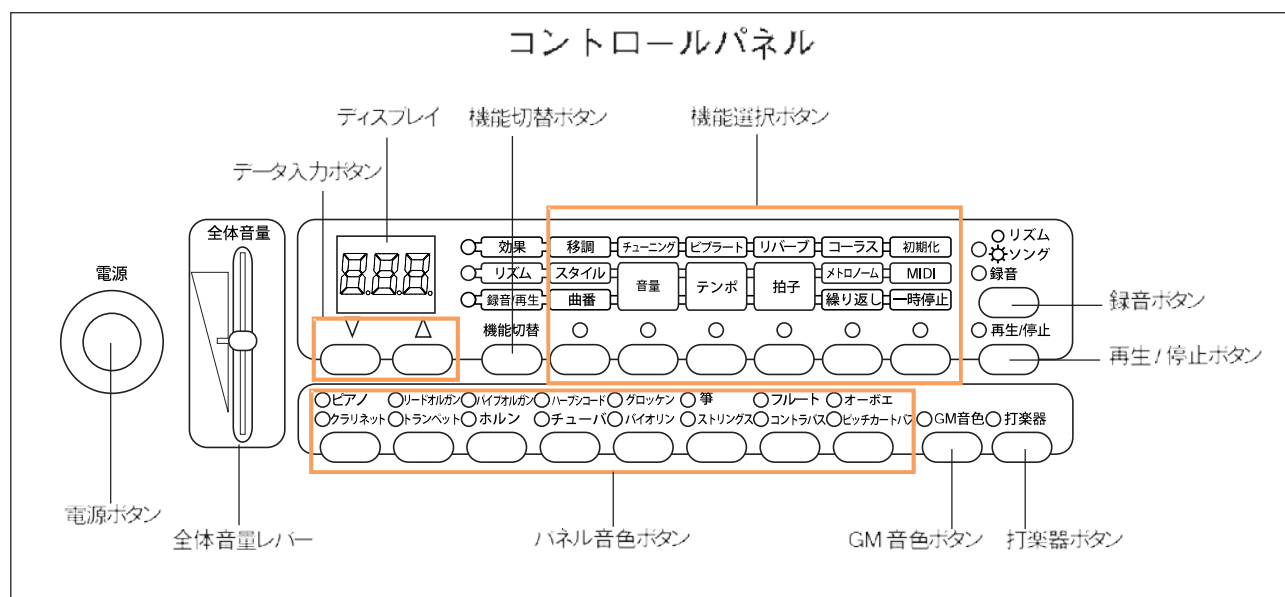
- ❌ バックアップバッテリーを子供の手の届くところに置かない。
お子様が誤ってバックアップバッテリーを飲み込むおそれがあります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。また、長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

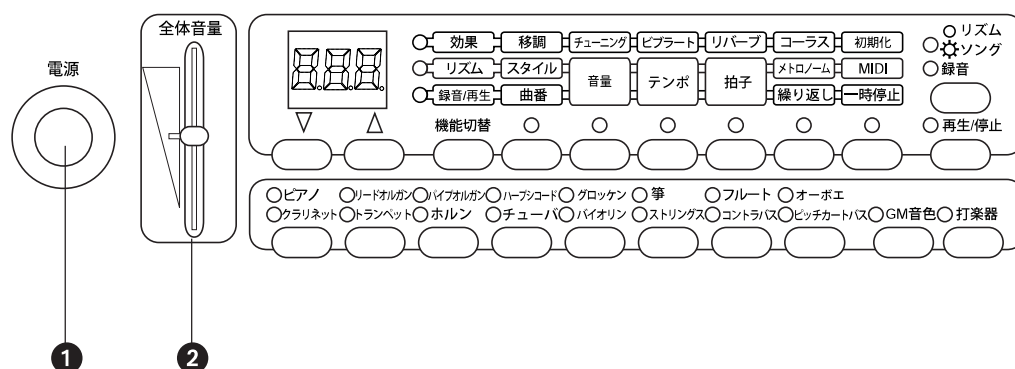
* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

各部の名称



操作と機能

基本的な操作

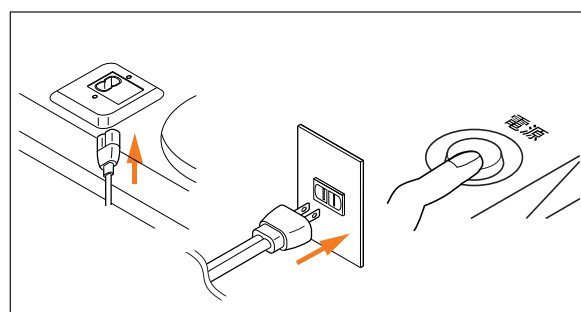


① 電源ボタン

本体下側の電源コード接続口にコードがしっかり差し込まれていることを確認し、電源コードプラグをコンセントに差し込みます。

電源ボタンを押し3秒ほどすると、「機能切替」の「効果」「移調」ランプ、パネル音色ボタン「ピアノ」ランプが点灯し、演奏可能な状態になります。

⇒一度使用した後では、前回最後に選んでいた音色のランプが点灯します。

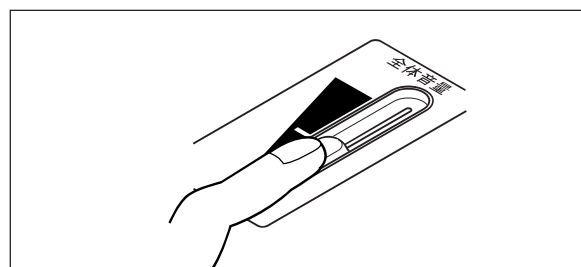


② 全体音量レバー

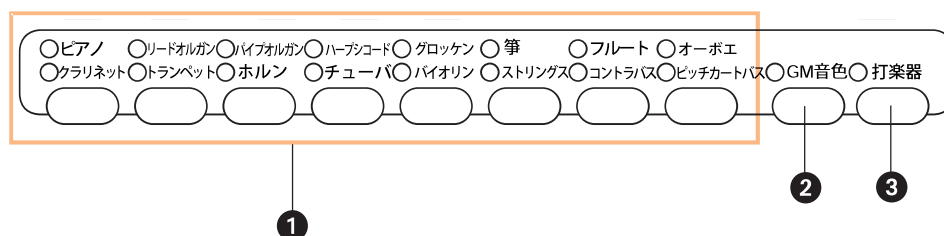
全体の音量をコントロールするレバーです。

鍵盤を弾いたときの最大の音量や、リズムやディスク再生の音量は、このレバーの位置により決まります。レバーを上をスライドさせるほど音は大きくなります。

⇒本製品は、音量を大きめに設定してあります。周囲が共鳴したり、ビリつく場合は、音量を小さくしてください。(P.31をごらんください)



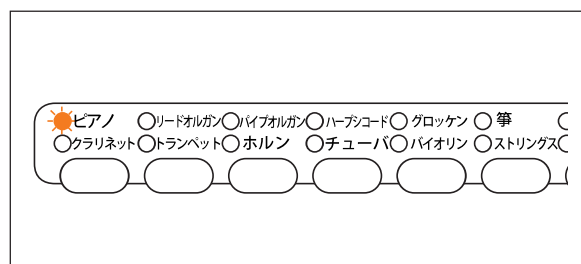
音色の選択



① パネル音色ボタン

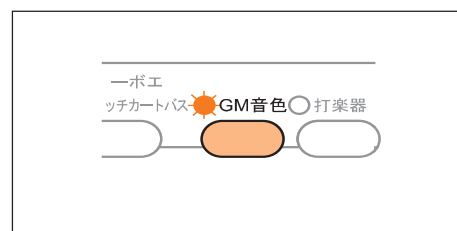
16種類のパネル音色を選ぶボタンです。1つのボタンには2つの音色が割り当てられていて、ボタンを押すごとに上と下が切り替わります。選択された音色は各音色名の横にあるランプの点灯で表示されます。

⇒現在選択されている音色が下段の場合、同じボタンを押すと上段が、違うボタンを押すと下段の音色が選択されます。



② GM 音色ボタン

128 種類の GM 音色を選ぶボタンです。[GM 音色]ボタンを押すとランプが点灯し、ディスプレイに音色番号「1」を表示します。[GM 音色]ボタンを押しながらデータ入力ボタンを押して音色番号を選択すると、1～128の音色番号が表示されます。また、[GM 音色]ボタンを押しながらデータ入力ボタン[▼]と[▲]を同時に押せば、音色番号が「1」に戻ります。



- ◆ GM 音色ボタンを押しながらパネル音色ボタンを押すと、音色番号が左のボタンから「1」「17」「33」「49」「65」「81」「97」「113」と変わります。
- データ入力ボタンには、音色番号を変える役割のほかに、テンポの速さを変えるなどいくつかの役割があります。

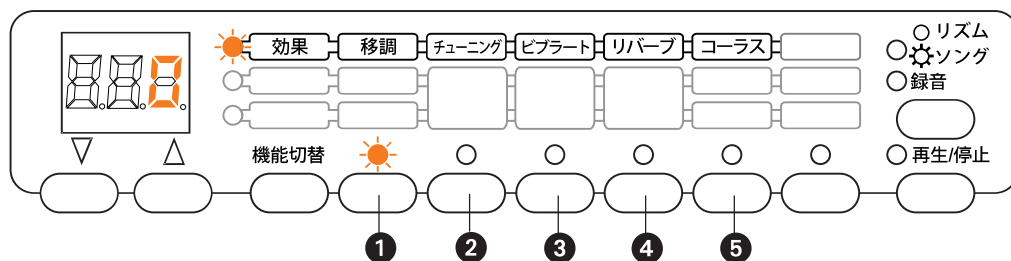
● GM 音色一覧

ピアノ	1 <u>グランドピアノ</u>	ベース	33 アコースティックベース	木管楽器 1	65 ソプラノサクソフォン	シンセ効果音	97 レイン
	2 <u>ブライトピアノ</u>		34 フィンガーベース		66 アルトサクソフォン		98 サウンドトラック
	3 <u>エレクトリックグランドピアノ</u>		35 ピックベース		67 テナーサクソフォン		99 クリスタル
	4 <u>ホンキートンクピアノ</u>		36 フレットレスベース		68 バリトンサクソフォン		100 アトモスフィア
	5 <u>エレクトリックピアノ1</u>		37 スラップベース1		69 <u>オーボエ</u>		101 ブライトネス
	6 <u>エレクトリックピアノ2</u>		38 スラップベース2		70 イングリッシュホルン		102 ゴブリン
	7 <u>ハーブシコード</u>		39 シンセベース1		71 バスーン		103 エコー
	8 <u>クラビ</u>		40 シンセベース2		72 <u>クラリネット</u>		104 サイエンスフィクション
音板打楽器	9 <u>チェレスタ</u>	ストリングス	41 <u>バイオリン</u>	木管楽器 2	73 ピッコロ	エスニック	105 シタール
	10 <u>グロッケンシュビュール</u>		42 ビオラ		74 <u>フルート</u>		106 バンジョー
	11 <u>ミュージックボックス</u>		43 チェロ		75 リコーダー		107 三味線
	12 <u>ビブラフォン</u>		44 <u>コントラバス</u>		76 バンフルート		108 <u>箏</u>
	13 <u>マリンバ</u>		45 <u>トレモロストリングス</u>		77 ボトル		109 カリンバ
	14 <u>シロフォン</u>		46 <u>ピッチカートストリングス</u>		78 尺八		110 バグパイプ
	15 <u>チューブラーベル</u>		47 ハープ		79 ホイッスル		111 フィドル
	16 <u>ダルシマー</u>		48 ティンパニ		80 オカリナ		112 シャナイ
オルガン	17 <u>ドローパーオルガン</u>	アンサンブル	49 <u>ストリングスアンサンブル1</u>	シンセリード	81 矩形波リード	パーカッション	113 ティンクルベル
	18 <u>パーカッシブオルガン</u>		50 <u>ストリングスアンサンブル2</u>		82 ノコギリ波リード		114 アゴゴ
	19 <u>ロックオルガン</u>		51 シンセストリングス1		83 カリオベリード		115 スティールドラム
	20 <u>チャーチオルガン</u>		52 シンセストリングス2		84 チフリード		116 ウッドブロック
	21 <u>リードオルガン</u>		53 コーラス アー		85 チャランリード		117 和太鼓
	22 <u>アコーディオン</u>		54 ボイス ウー		86 ボイスリード		118 メロディックタム
	23 <u>ハーモニカ</u>		55 シンセボイス		87 5度リード		119 シンセドラム
	24 <u>タンゴアコーディオン</u>		56 <u>オーケストラヒット</u>		88 ベース&リード		120 リバースシンバル
ギター	25 <u>ナイロンギター</u>	金管楽器	57 <u>トランペット</u>	シンセパッド	89 ニューエイジパッド	効果音	121 フレットノイズ
	26 <u>スチールギター</u>		58 トロンボーン		90 ウォームパッド		122 プレスノイズ
	27 <u>ジャズギター</u>		59 <u>チューバ</u>		91 ポリシンセパッド		123 海辺
	28 <u>クリーンギター</u>		60 ミュートトランペット		92 クワイアパッド		124 鳥のさえずり
	29 <u>ミュートギター</u>		61 <u>フレンチホルン</u>		93 ボウドパッド		125 電話のベル
	30 <u>オーバードライブギター</u>		62 <u>プラスセクション</u>		94 メタリックパッド		126 ヘリコプター
	31 <u>ディストーションギター</u>		63 シンセプラス1		95 ヘイロパッド		127 拍手
	32 <u>ギターハーモニクス</u>		64 シンセプラス2		96 スワイプパッド		128 銃声

下線 _____ の付いた音色は、パネル音色に使われています。

効果機能

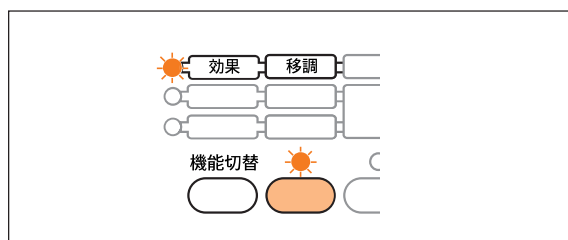
コントロールパネルでは「効果」、「リズム」、「録音 / 再生」の各機能を[機能切替]ボタンで選びます。各[機能選択]ボタンの上にあるランプと「効果」、「リズム」、「録音 / 再生」の横にあるボタンで操作可能な機能を表示します。[機能切替]ボタンを押して「効果」ランプを点灯させると、図の 5 つの機能を選べます。



① 移調

鍵盤の演奏やソング再生の音程を変化させるときに使用します。電源を入れた直後は「0」で、データ入力ボタン[▼]または[▲]で半音ずつ-12～12（±1 オクターブ）に変化させることができます。

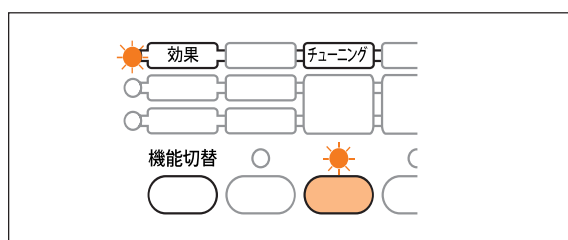
- ◆ データ入力ボタン[▼]と[▲]を同時に押すと「0」に戻ります。
- ◆ 鍵盤の演奏だけを移調させたくない場合は、鍵盤トランスポーズをOFFにします。（P.24 をごらんください）



② チューニング

音の高さを調節する（調律）機能です。データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すことで周波数が 1Hz（ヘルツ）ずつ変化します。変化する範囲は A = 438Hz から 445Hz の間です。表示部にはそのとき選択している周波数が表示されます。

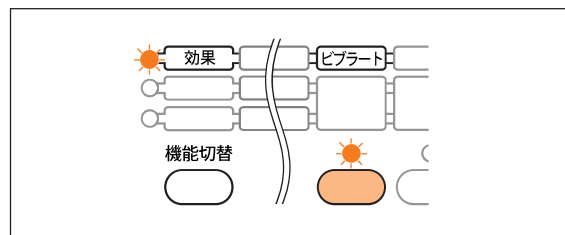
- ◆ 最初に電源を入れたときは 442Hz に設定されています。
- ◆ 一度チューニングを変更すると、電源を切っても保存されています。
- ◆ データ入力ボタン[▼]と[▲]を同時に押すと、442Hz に戻ります。



③ ビブラート

音が揺れる効果を加えます。ボタンを押すごとに ON/OFF が切り替わります。ON のときは深さを数字で表示します。ON のときのみデータ入力ボタン[▼]または[▲]で、ビブラートの深さを 1～15 の範囲で設定することができます。

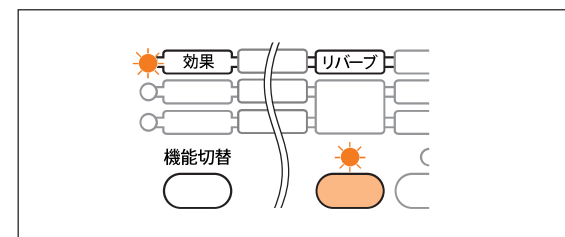
- ◆ 打楽器には効果がありません。
- ◆ パネル音色では、音色により ON/OFF が設定されています。
- ◆ 電源を入れた直後は、ON の場合は「8」に設定されています。



④ リバーブ

臨場感のある広がりを与える効果です。ボタンを押すごとに ON/OFF が切り替わります。ON のときは深さを数字で表示します。ON のときのみデータ入力ボタン[▼]または[▲]で、リバーブの深さを 1～15 の範囲で設定することができます。

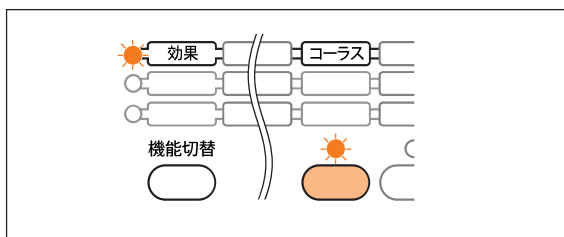
- ◆ 電源を入れた直後は「8」に設定されています。
- ◆ ON のときデータ入力ボタン[▼]と[▲]を同時に押すと「8」に戻ります。
- ◆ 全音色に共通です。



⑤ コーラス

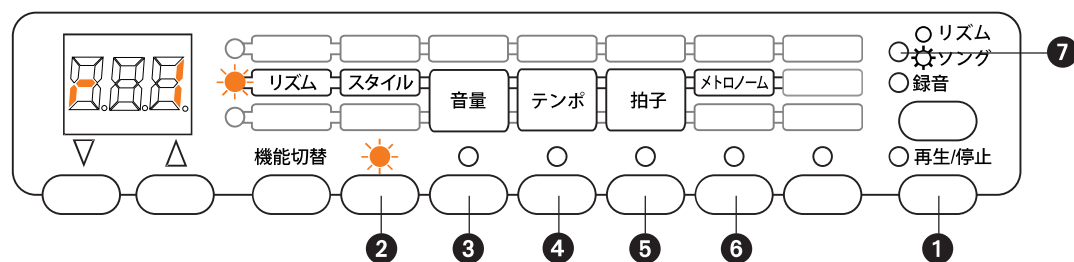
音がうねるような効果を与えます。ボタンを押すごとにON/OFFが切り替わります。ONのときは深さを数字で表示します。ONのときのみデータ入力ボタン[▼]または[▲]で、コーラスの深さを1～15の範囲で設定することができます。

- 電源を入れた直後はOFFに設定されています。
- 打楽器には効果がありません。打楽器以外の全音色に共通です。
- ONのとき、データ入力ボタン[▼]と[▲]を同時に押すと「8」になります。



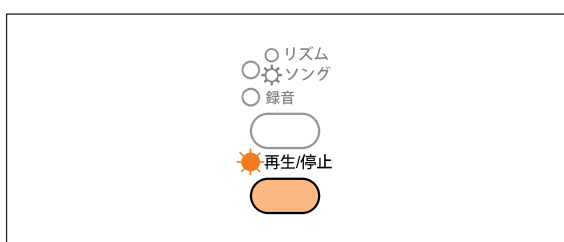
リズム機能

[機能切替]ボタンを押して「リズム」ランプを点灯させると、図の機能を選べます。



① 再生 / 停止

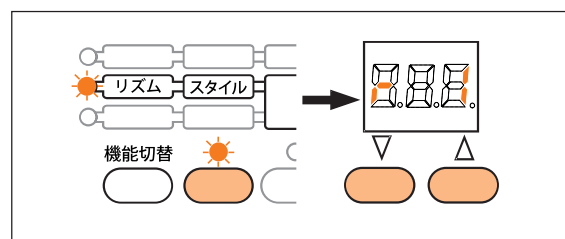
リズムを再生 / 停止するボタンです。1回押すとリズムが再生され、もう一度押すとリズムが停止します。



② スタイル

10種類のリズムスタイルを選ぶボタンです。データ入力ボタン[▲]を押すと次のリズムスタイルが選択され、データ入力ボタン[▼]を押すと前のリズムに戻ります。選択されたリズムスタイルはディスプレイに表示されます。

- リズムが鳴っているときにデータ入力ボタン[▲]、[▼]を押して別のスタイルを選ぶと、表示部の「r」の文字が反転して次の小節から新しいスタイルに変わります。この場合、テンポは変わりません。
- ソング再生時はリズムを選ぶことができません。
- OFFにもできます。



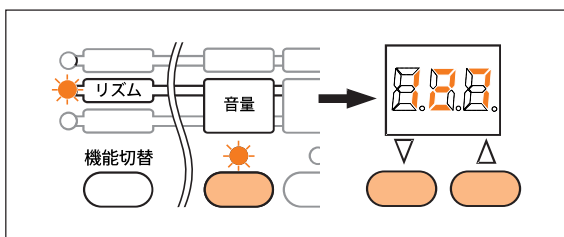
リズムスタイル標準テンポ

表示	リズムスタイル名	標準テンポ
r 1	8 ビート	124
r 2	16 ビート	120
r 3	シャッフル	125
r 4	スウィング	116
r 5	マーチ	120
r 6	マーチ (6/8)	132
r 7	ワルツ	182
r 8	サンバ	108
r 9	ビギン	112
r 10	ボサノバ	122

③ 音量

リズムの音量をデータ入力ボタンで調節します。通常は最大音量になっていますが、データ入力ボタン[▼]を押すと音量を下げる事ができ、[▲]を押すと音量を上げることができます。

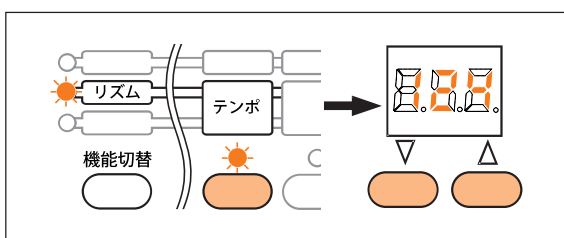
- 表示部にはリズムの音量を 0～127 で表示します。
- 電源を入れた直後は「127」（最大）に設定されています。
- リズム音量は「リズム」、「打楽器」、「メトロノーム」およびソング再生に対して有効です。



④ テンポ

リズムのテンポを $q=32 \sim 280$ の間で変えることができます。[▲]ボタンを押すとテンポが速くなり、[▼]ボタンを押すとテンポが遅くなります。

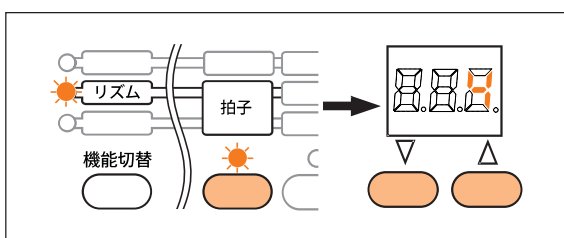
- テンポはソングレコーダーでの録音/再生のときも、[▼]と[▲]ボタンを押して自由に変えることができます。テンポは、ソングレコーダーでの録音のとき記録されます。したがって、再生時には記録されたテンポで演奏されます。
- 10種類のリズムスタイル各々に標準テンポが設定されています。[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと各リズムの標準テンポに戻ります。



⑤ 拍子

メトロノームの拍子を0拍子～6拍子の間で切り替えることができます。電源を入れた直後は4拍子に設定されています。[▲]ボタンを押すと拍子数が増え、[▼]ボタンを押すと拍子数が減ります。

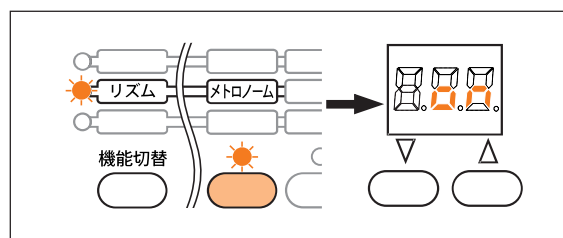
- [▼]と[▲]ボタンを同時に押すと 4 拍子に戻ります。
- 0 にすると、メトロノームは常に弱拍が鳴ります。



⑥ メトロノーム

メトロノームを鳴らすことができます。1回押すとメトロノームがスタートします。もう一度押すとストップします。メトロノームの音量はリズム音量で調節します。

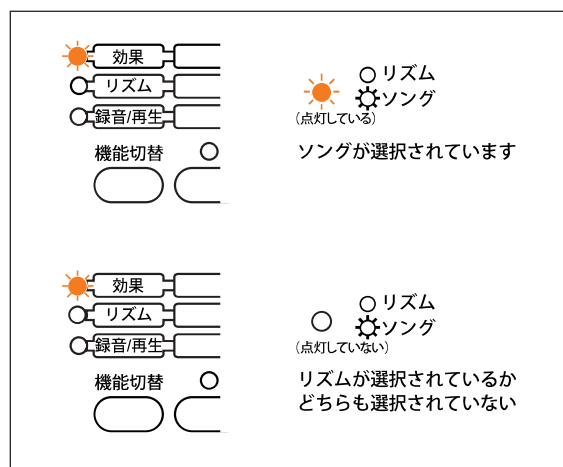
- リズムが鳴っているときに[メトロノーム]ボタンを押すと、再生しているリズムのテンポと拍子に合わせてメトロノーム音が鳴ります。
- 「メトロノーム」がONの場合、リズムが鳴っているときにリズムをストップさせてもメトロノームは止まりません。



⑦ 再生モード表示

再生モード表示ランプは現在のリズムとソングの選択状態を示しています。ランプが消えているときは、両方ともOFFかリズムが選択されています。ランプが点灯しているときはソングが選択されています。

ディスプレイが「スタイル」、「曲番」以外の表示の場合、「再生 / 停止」ボタンを押すと何が再生されるのかの目安になります。

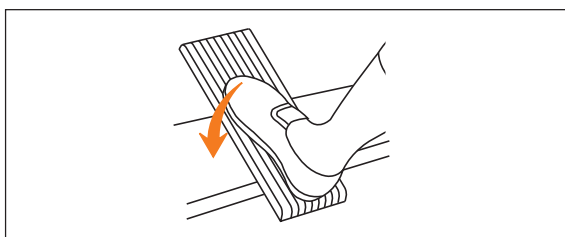


各ペダルの操作

1 エクスプレッションペダル

音量をコントロールするペダルです。踏み込む深さによって音量をコントロールできますので、演奏中、音に強弱をつけることができます。ペダルを踏み込んだときの最大音量は全体音量レバーで決まります。

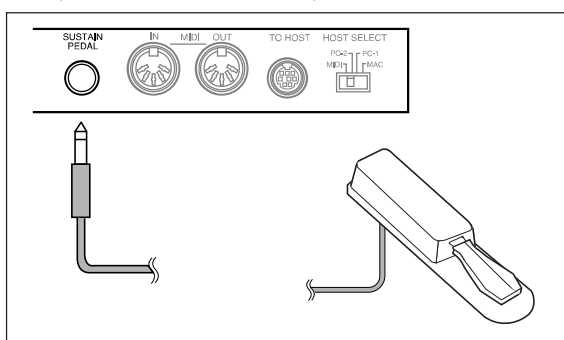
- ⇒ ●再生中のソング音量はエクスプレッションペダルでは変化しません。リズム機能の「音量」で調整してください。
- エクスプレッションペダルで打楽器の音量を変えることはできません。リズム機能の「音量」で調整してください。(P.12 をごらんください)



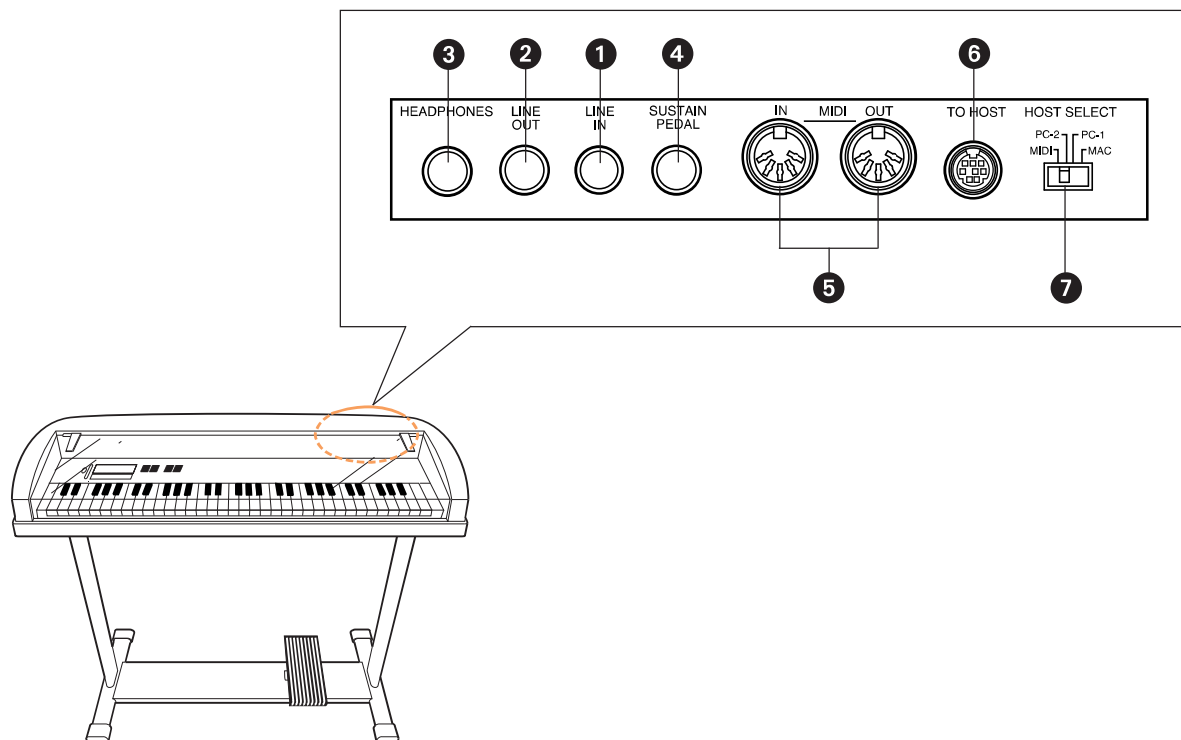
2 サステインペダル

鍵盤から指を離したあと、音を持続させる効果を作ります。ペダルを踏むとON、離すとOFFになります。

- ⇒ ●サステインペダルで打楽器に効果を与えることはできません。
- サステインペダルには別売のフットスイッチをサステインペダル端子に接続して使用してください。(P.14 をごらんください)



外部入出力端子



① ライン入力端子（モノラル）

他の電子楽器等の音をSE-3000のスピーカーから出したいときに使います。

② ライン出力端子（モノラル）

他の機器にSE-3000の音を入力したいときに使います。アンプ内蔵スピーカー等に接続して、より迫力のある演奏ができます。

⚠ ライン出力端子とライン入力端子を同時にテーブルコーダーに接続しないでください。故障の原因になる場合があります。

③ ヘッドホン端子

ステレオヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホン使用時には、SE-3000 本体のスピーカーからは音が出なくなります。

④ サステインペダル端子

FC-4、FC-5 等のフットスイッチを接続し、サステインのON、OFFをコントロールすることができます。フットスイッチを踏んでいる間だけ、サステイン効果がかかります。

⑤ MIDI IN/OUT（ミディ端子）

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、デジタル電子楽器の世界統一規格です。別売のMIDI ケーブルを使って、MIDI 対応のシンセサイザーやシーケンサーなどと接続すれば、アンサンブルなど多彩な演奏ができます。

⑥ TO HOST 端子

コンピューターの音楽ソフトを使い、SE-3000 を外部からコントロールするために使用します。接続には接続先のコンピューターに合わせて、専用のケーブルが必要になります。

⑦ HOST SELECT スイッチ

MIDI、TO HOST 端子を使用するときに、接続先のコンピューターに合わせてスイッチを切り替えます。

⇒ TO HOST 端子、HOST SELECT スイッチについては 27 ページをごらんください。

❗ ライン入力、ライン出力、MIDI、TO HOST のケーブルは、電源を切った状態で接続してください。

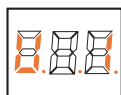
ソングレコーダーの操作

ソングについて

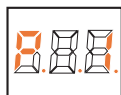
●ユーザーソングとデモソング

SE-3000は、内蔵メモリーに最大で10曲までの演奏を録音し再生することができます。

自分で録音した曲を「ユーザーソング」といい、ディスプレイには「U」と曲の番号とが表示されます。



また、あらかじめ8曲を「デモソング」として内蔵しています。デモソングは「P」と曲の番号で表示します。デモソングを消したり、重ね録音することはできません。



◇ デモソングはバックアップバッテリーがなくなっても消えません。

●メモリーの容量

ユーザーソング録音用のメモリーは10曲トータルで約6000音分（鍵盤情報のみ録音の場合）です。エクスプレッションペダルを使用した場合、録音できる音はこれより少なくなります。また10曲全部に録音済みでなくても、内蔵メモリーの空き容量がなくなればそれ以上は録音できません。

●メモリー内容の保護

SE-3000はバックアップバッテリー（リチウム電池）を内蔵しているので、電源を切ったり電源コードをコンセントから外したりしても内蔵メモリーのユーザーソングは記憶されています。しかし、バックアップバッテリーがなくなると、ユーザーソングは予告なしに消えてしまいます。

大切なソングはMIDI機能のバルクダンプを使用してディスクに保護することをお勧めします。（P.26をご覧ください）

- ◇ ● 一度消えてしまったユーザーソングを復活させることはできませんので注意してください。
- デモソングは、バックアップバッテリーがなくなっても消えることはありません。

●バックアップバッテリーについて

バックアップバッテリーは約2年で消耗しますので早めに、あるいは定期的な交換をお勧めします。バックアップバッテリーの交換はお買い上げの楽器店、またはヤマハ修理ご相談センターに依頼してください。

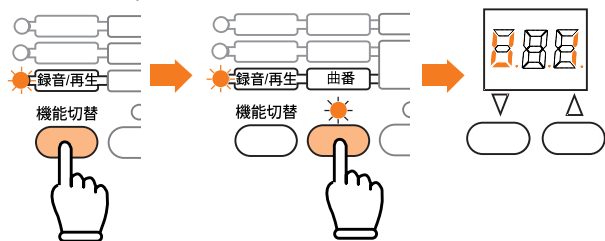
◇ バッテリー交換時には、ユーザーソング等メモリーの内容は消えます。

ソングの再生のしかた

●再生のしかた

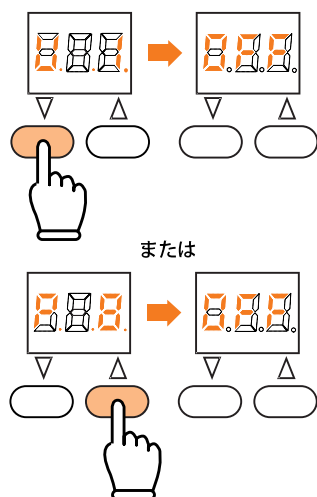
1 曲番を選択します

[機能切替]ボタンを押して「録音/再生」ランプを点灯させ[曲番]ボタンを押すと、曲番が選択できるようになります。



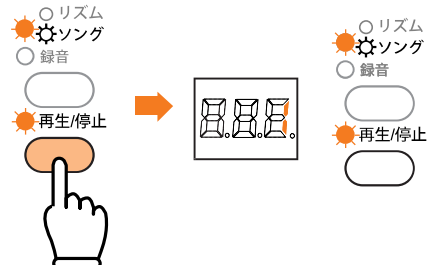
[▲]ボタンを押すと、曲番は「OFF」→「U. 1.」→「U. 1.0.」→「P. 1.」→「P. 8.」と変化します。録音されている曲番は、ディスプレイの3つのドットが点灯します。

⇒「U. 1.」で[▼]ボタンあるいは「P. 8.」で[▲]ボタンを押せば「OFF」になります。



2 [再生/停止]ボタンを押します

ディスプレイに小節番号「 1 」が表示され、1曲目の再生が始まります。



3 早送り、早戻し

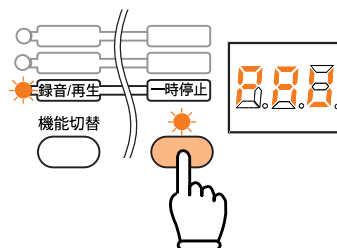
ディスプレイに小節番号を表示しているときに（「曲番」または「一時停止」のランプが点灯中）、[▲]または[▼]ボタンを押すと、曲の早送り、早戻しができます。

⇒ [▲]ボタンを押すと演奏内容を早送りで聞くことができます。しかし、[▼]ボタンを押して早戻しをするときは聞くことができませんので、ディスプレイの小節番号で確認してください。

- 早送りで演奏を聞く必要のない場合は、一時停止の状態です[▲]ボタンを押します。ディスプレイ上の小節番号が変わり、[再生/停止]ボタンを押した時点で表示されたところから再生します。
- 一時停止中に早戻しもできます。
- 再生中でも、移調および鍵盤の音色選択ができます。
- テンポ変更を含む部分を早戻した場合、もとのテンポには戻りません。

4 一時停止

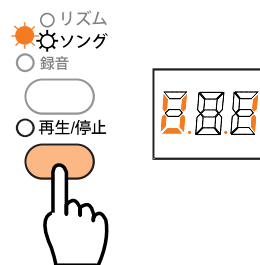
再生中に[一時停止]ボタンを押すと一時停止になり、ディスプレイに「PAU」が表示され、もう一度押すと再生を始めます。



5 終了

曲が終了すると、自動的に停止状態になります。曲の途中で再生を止めたいときは[再生/停止]ボタンを押します。

⇒ [一時停止]ランプが点灯している状態では、小節番号「 1 」を表示します。



●デモソング一覧

P 1	さんぽ	久石 譲 作曲	P 5	赤いやねの家	上柴はじめ 作曲
P 2	森のくまさん	アメリカ民謡	P 6	歌よ ありがとう	橋本祥路 作曲
P 3	大きな栗の木の下で	イギリス民謡	P 7	Smile Again (スマイル アゲイン)	中山真理 作曲
P 4	ふるさと	岡野貞一 作曲	P 8	ドレミの歌	リチャード・ロジャーズ 作曲

●再生モード表示ランプ

曲番が「OFF」以外の場合、ソングが選択された状態になり再生モード表示ランプが点灯します。

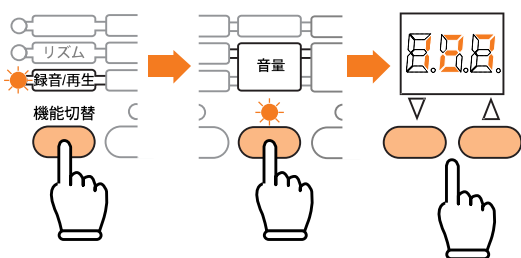


- ♪ ソングが選択されていないときは再生モード表示ランプは点灯しません。
- ♪ ソングを選択するとリズムスタイルは自動的にOFFになりランプが点灯します。またリズムスタイルを選択するとソングはOFFになりランプは消灯します。

●再生音量の調節

再生音量は、[音量]ボタンを押しランプを点灯させてボタン[▲]または[▼]で調節します。

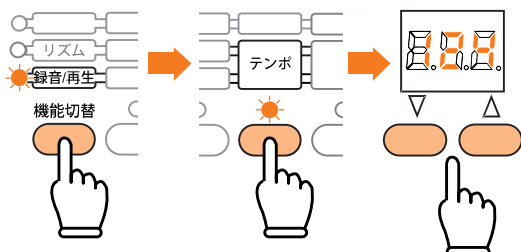
- ♪ 通常は「127」（最大）になっています。
- ♪ [機能切替]は、[録音 / 再生]でも[リズム]でも構いません。



●テンポの変更

リズムの“テンポ”と同じ方法で変更することができます (P.12をご覧ください)。
[▲] ボタンを押すとテンポが速くなり、[▼] ボタンを押すとテンポが遅くなります。テンポは $q=32 \sim 280$ の間で変えることができます。

- ♪ [機能切替]は、[録音 / 再生]でも[リズム]でも構いません。



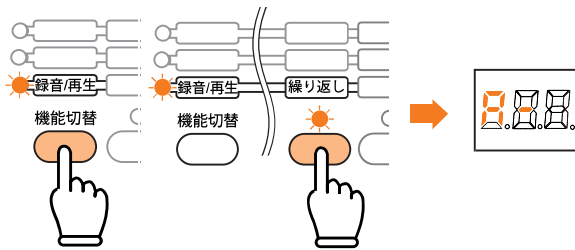
●繰り返し再生のしかた

演奏を何回も繰り返して聞く時に使います。

曲の一部を繰り返し聞く場合（A－Bリピート）

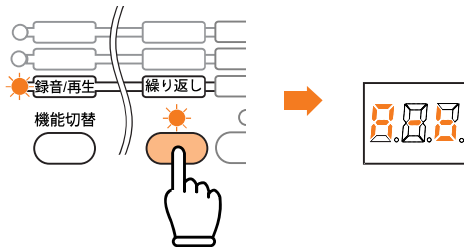
1 演奏の始め（A 点）をセット

[再生/停止]ボタンを押して演奏をスタートさせます。[機能切替]ボタンを押して「録音 / 再生」ランプを点灯させ、[繰り返し]ボタンを押してランプを点灯させます。同時に演奏の開始位置（A 点）がセットされ、ディスプレイに「A - 」と表示されます。



2 演奏の終わり（B 点）をセットし、繰り返し再生をスタート

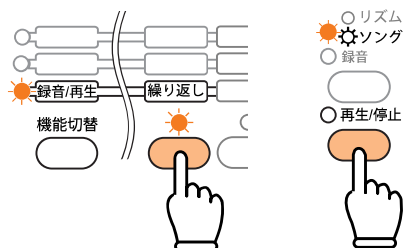
繰り返したい演奏の終わり（B 点）で再び[繰り返し]ボタンを押します。1小節カウント音が鳴った後に繰り返し演奏が始まります。



3 終了

繰り返し再生を止めたいときは[再生 / 停止]ボタン、または[繰り返し]ボタンを押します。

- ◇ [再生/停止]ボタンを押すと、演奏が終わります。
- [繰り返し]ボタンを押すと、曲の終わりまで演奏して停止します。

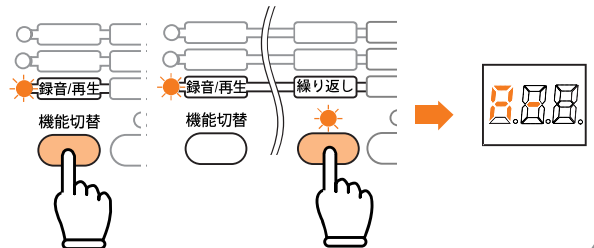


◇ 繰り返し再生中でも、移調および音色選択ができます。

1 曲を繰り返し聞く場合（1 曲リピート）

1 繰り返ししたい演奏をセット

演奏が停止している状態で[機能切替]ボタンを押して[録音/再生]ランプを点灯させ、[繰り返し]ボタンを押します。演奏の開始位置がセットされます。[再生/停止]ボタンで演奏をスタートし、曲の終わりまでそのままにしておけば、ディスプレイの表示が「A - b」になり、先頭に戻って繰り返し再生します。



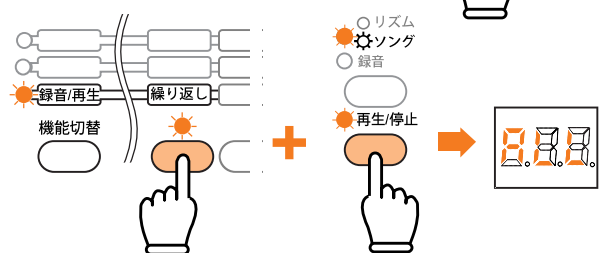
全曲を繰り返し聞く場合

1 繰り返し再生スタート

[機能切替]ボタンを押して[録音 / 再生]ランプを点灯させます。

[繰り返し]ボタンを押しながら[再生/停止]ボタンを押してください。ディスプレイに「ALL」が表示され、メモリーに録音されている全曲が連続再生されます。

- ◇ 選ばれていた曲番から再生が始まります。
- 曲番がデモソングのときは、全てのデモソングを繰り返し再生します。



2 終了

繰り返し再生を止めたいときは、[再生 / 停止]ボタンを押します。

- ◇ 繰り返し再生中でも、移調および音色選択ができます。

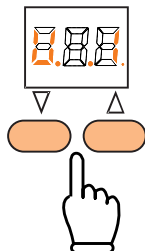


録音のしかた

●曲を最初から録音する場合

1 曲番を選択します

ボタン[▲]、[▼]を押して、まだ録音されていない曲番を選びます。ディスプレイに現在選んでいる曲番が表示されます。録音されている曲番の場合は、ディスプレイの3つのドットが点灯します。「U 1」～「U 10」が、録音可能な曲番です。

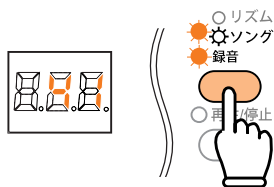


- 曲番が「U 10」まで行き、そのまま[▲]のボタンを押すとデモソングになります。また、ボタンを押し続けると連続的に曲番が増減します。
- [▲]、[▼]両方のボタンを同時に押すと「U 1」に戻ります。

2 録音の準備

[録音]ボタンを押すと、録音待機状態になり、ボタンを離すとメトロノームが鳴り始めます。

[録音]ボタンを押している間は、メモリーの残り容量が表示されます。(単位= kbyte)



録音待機状態で、音色やテンポや拍子を変更できます。(P.12 をごらんください)

3 録音の開始

鍵盤を弾くか、または[再生/停止]ボタンを押すと、録音が始まり、ディスプレイに現在の小節番号を表示します。

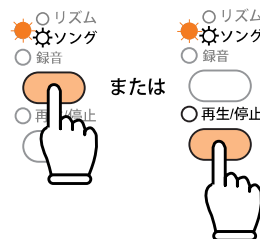


- [再生/停止]ボタンを押して録音を始めると、2小節分のカウントが入ります。この間は鍵盤を弾いても録音されません。
- カウント後、すぐに鍵盤を弾き録音を始めると、タイミングが早すぎて1拍目の頭の音のみ録音できないことがあります。その場合は、メトロノームのカウント後、はじめの1小節は空けて録音を始めてください。
- 録音中にメモリーの残り容量が0になり、これ以上録音ができなくなった場合は、ディスプレイに「FUL」を表示し録音を終了します。終了した時点までのデータは保存されます。

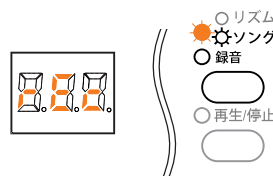


4 録音の終了

録音を終了するときは[録音]ボタン、または[再生/停止]ボタンを押します。[録音]ボタンのランプが消え、停止します。データをメモリーに書き込んだ後、ディスプレイに録音した曲番が表示されます。



- 録音終了時、データをメモリーに書き込む間、ディスプレイに「rEc」が表示されます。このとき、リズムなどの操作はできません。



5 録音のキャンセル

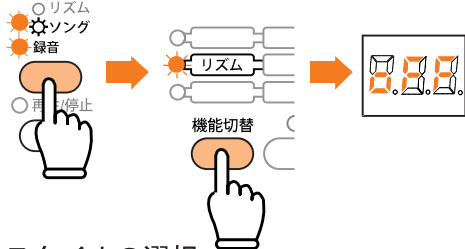
録音待機状態で、もう一度[録音]ボタンを押します。[録音]ボタンのランプが消え、メトロノームが鳴り止みます。



●演奏と同時にリズムスタイルを録音する場合

1 録音の準備

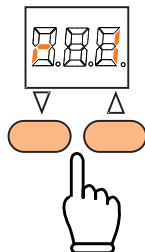
[録音]ボタンを押したあと、「機能切替」で「リズム」を選ぶとディスプレイに「OFF」と表示されます。



2 リズムスタイルの選択

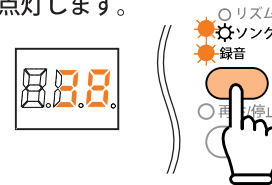
ボタン[▲]、[▼]を押して、同時に録音したいリズムスタイルを選びます。

⇒ リズム同時録音をやめるときは、ボタン[▼]を押して、ディスプレイの表示を「OFF」にします。



3 録音の準備

[録音]ボタンを押し、録音待機にします。[録音]ランプが点灯します。



4 録音の開始

鍵盤を弾くか、または[再生/停止]ボタンを押すと、録音が始まります。

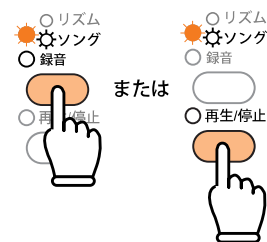


⇒ 曲の途中から録音している時は、[再生/停止]ボタンを押しても2小節のカウントはありません。

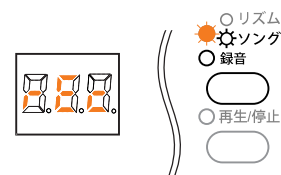
• 演奏を始めると、メトロノームが鳴り始めます。

5 録音の終了

録音を終了するときは、[録音]ボタンまたは[再生/停止]ボタンを押します。[録音]ボタンのランプが消え、停止します。データをメモリーに書き込んだ後、ディスプレイに録音した曲番が表示されます。



⇒ 録音終了時、データをメモリーに書き込む間、ディスプレイに「rEc」が表示されます。このとき、リズムなどの操作はできません。

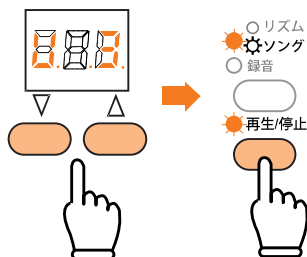


⇒ 録音を始めた位置から後の演奏は、全て書き換えられます。例えば、20小節分の15～16小節だけ書き換えるようなことはできません。

●曲の途中から録音する場合（パンチイン録音）

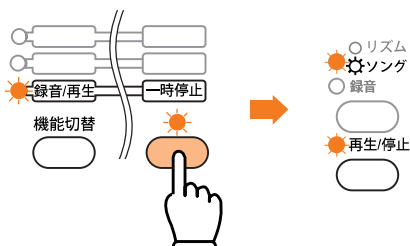
1 曲を再生します

録音したい曲の曲番を選択、[再生/停止]ボタンを押し、曲を再生します。



2 録音位置の決定

録音を始めたところで[一時停止]ボタンを押して、録音開始位置を決めます。「再生/停止」ランプが点滅します。

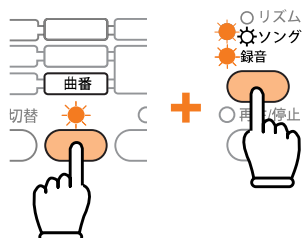


●外部からの演奏情報を録音する場合

P19「曲を最初から録音する場合」の1、2の操作で録音する曲を選択します。

録音準備の時に[曲番]を押しながら、[録音]ボタンを押します。

録音を開始するとMIDI INまたはTO HOSTから入力される情報が、一度に録音できます。



⇒ この状態で録音を開始すると、本体の押鍵、パネルボタン操作などの情報は、トラック1に記録されます。

●録音に関する注意

■録音にメトロノームが必要ない場合

録音するときにメトロノームを鳴らしたくない場合は、録音の準備の後、メトロノームを「OFF」にしてください。(P.12をご覧ください)

⇒ この場合も、[再生/停止]ボタンで録音を開始したならば、カウントの2小節間のメトロノームは鳴ります。

■録音パートについて

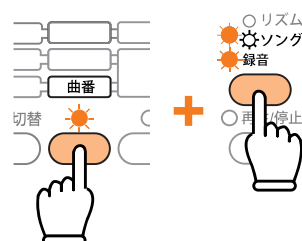
本体のみを使って録音する場合は、トラック1にしか録音できません。

⇒ リズムスタイルや打楽器音色は、トラック10に録音されます。

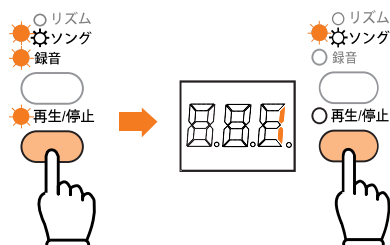
●演奏データの消去のしかた

P19「曲を最初から録音する場合」の1、2の操作で消去する曲を選択します。

録音準備の時に[曲番]を押しながら、[録音]ボタンを押します。



[再生/停止]ボタンを押すと、2小節分のカウントが鳴ります。ディスプレイに「1」と表示されるまで鍵盤を弾かず、その後[再生/停止]ボタンを押すと曲が消去されます。



⇒ 初期化機能でも曲を消去できます。(P.22)

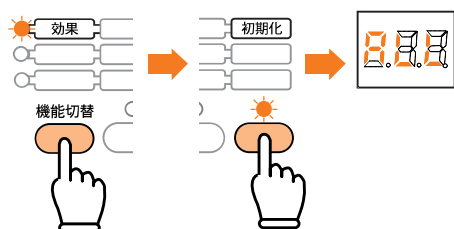
初期化のしかた

SE-3000には、フロッピーディスクの代わりにユーザーソング録音用のメモリーが内蔵されています。メモリーの容量には限りがありますのでディスプレイの表示が「FUL」になったときや、今まで記録したものをすべて消したいとき、初期化の操作をします。また、ユーザーソング以外にも、チューニング、パネル音色、GM音色番号、打楽器音色セット、MIDI設定が保存されています。初期化の方法は次の3つがあります。

●全てのバックアップデータとユーザーソングを初期化（工場出荷時の状態に戻す）

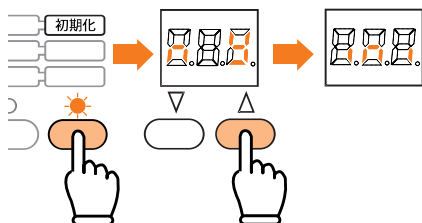
1 「ALL」を表示

[機能切替]ボタンで[効果]を選択し、[初期化]ボタンを押すとディスプレイに「ALL」の表示が出ます。



2 初期化の開始

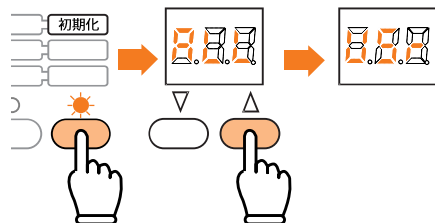
もう一度[初期化]ボタンを押すとディスプレイに「n y」と表示されますので、[▲]ボタンを押し初期化を開始します。ディスプレイに「In I」(イニシャライズ)が約1秒間表示され、終了すると表示は元に戻ります。



●全てのユーザーソングを初期化（消去）

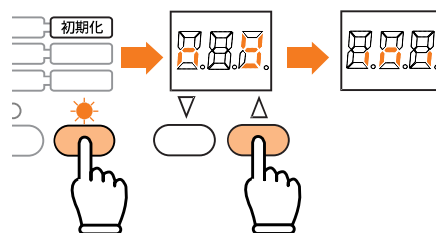
2 全てのユーザーソングを初期化

[機能切替]ボタンで[効果]を選択し、[初期化]ボタンを押すと「ALL」と表示されますので、[▲]ボタンを1回押して表示を「USr」に換えます。



2 初期化の開始

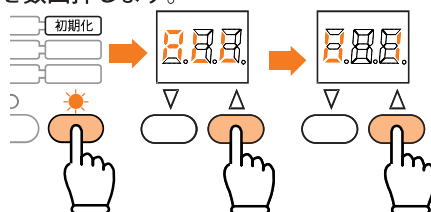
もう一度[初期化]ボタンを押すとディスプレイに「n y」と表示されますので、[▲]ボタンを押し初期化を開始します。ディスプレイに「In I」(イニシャライズ)が約1秒間表示され、終了すると表示は元に戻ります。



●指定したユーザーソング（一曲）を初期化（消去）

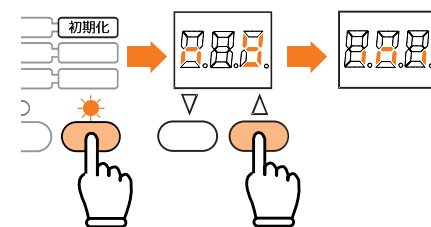
1 曲番の表示

[機能切替]ボタンで[効果]を選択し、[初期化]ボタンを押すと「ALL」と表示されますので、初期化したいユーザーソングの曲番が表示されるまで[▲]ボタンを数回押します。



2 初期化の開始

もう一度[初期化]ボタンを押すとディスプレイに「n y」と表示されますので、[▲]ボタンを押し初期化を開始します。ディスプレイに「In I」(イニシャライズ)が約1秒間表示され、終了すると表示は元に戻ります。

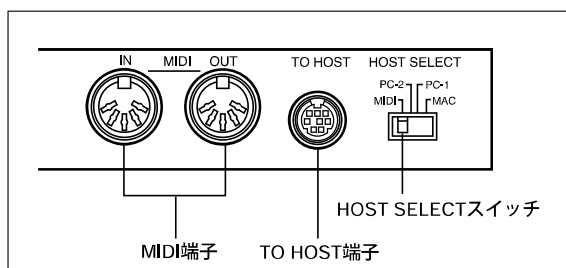


- 一度初期化（消去）してしまったユーザーソングは元に戻りません。記録しておきたいユーザーソングデータは、バルクダンプ機能を使用して保存するようにしてください。（P.26）
- バックアップバッテリーが消耗すると異常と判断して、全てのバックアップデータとユーザーソングが初期化されてしまいます。バックアップバッテリーの定期交換をおすすめします。

MIDI について

MIDI とは…？

学校用オルガン SE-3000 には、先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方ができる MIDI 端子がついています。

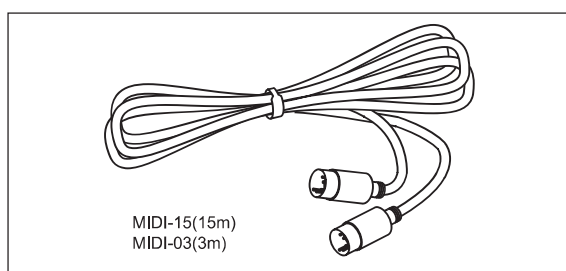


この MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface（ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス）を略したもので、電子楽器同士を MIDI ケーブルで接続し、音程や音の長さといった演奏の情報などをお互いに交換するためのものです。また、MIDI は世界の電子楽器の統一規格ですから、どこのメーカーの製品でも、MIDI 端子がついていれば演奏情報の交換をすることができます。

接続方法について

SE-3000 の MIDI 端子には、OUT 端子（送信側）、IN 端子（受信側）があります。接続は専用の MIDI ケーブルをお使いください。

⇒ MIDI ケーブルはオーディオの DIN ケーブルと酷似していますので注意してください。オーディオの DIN ケーブルを MIDI 端子に誤って接続してしまいますと故障の原因になります。

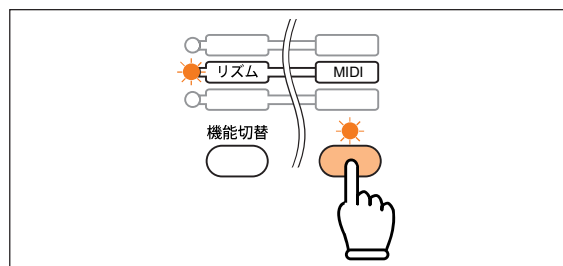


SE-3000 から演奏の情報を送る場合は OUT 端子に、情報を受けて SE-3000 の音源を使って音を出す場合は IN 端子に接続してください。（MIDI を使って情報交換できるのは、あらかじめ MIDI 端子をそなえた機器に限られます。）

⇒ MIDI 端子を使用するときは HOST SELECT スイッチを「MIDI」の位置に切り替えてください。

MIDI 設定

SE-3000 では、MIDI に関して 6 つの設定及びバルクデータ送信ができます。[機能切替] ボタンを押して「リズム」ランプを点灯させ [MIDI] ボタンを押すと、MIDI 設定状態になります。



● MIDI 送信チャンネルの設定

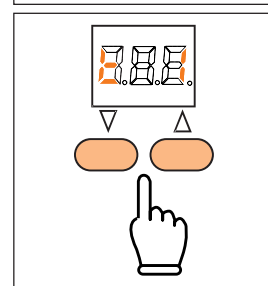
MIDI には 1 ～ 16 のチャンネルがあり、それぞれが独立した情報を送受信します。

ここでは、鍵盤やペダルなど本体の演奏情報をどのチャンネルを使って送信するかを設定します。

パネル音色 [ピアノ] を押し、「ピアノ」のランプが点灯すると、MIDI 送信チャンネル設定状態になります。



データ入力ボタン [▼] または [▲] を押すと、チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で変更できます。



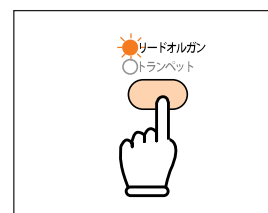
⇒ データ入力ボタン [▼] と [▲] を同時に押すと、MIDI 送信チャンネル 1 に戻ります。

- この設定は、電源を切っても記憶されます。
- 受信はチャンネル 1 ～ 16 を全て独立して行うので、受信チャンネルを設定する必要はありません。

● MIDI クロック外部 / 内部の選択

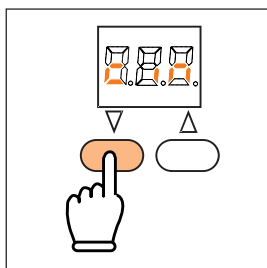
クロックとは、数台の電子楽器を MIDI で接続し再生、録音するときの基本となるテンポのことです。内蔵クロックで演奏するか、他の楽器のクロックに合わせて演奏するか設定できます。

パネル音色 [リードオルガン] を押し、「リードオルガン」のランプが点灯すると、MIDI クロック設定状態になります。

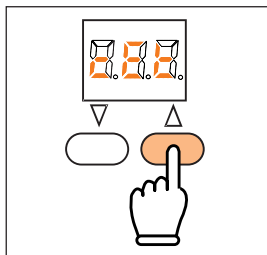


データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すと、クロックの外部 / 内部の選択ができます。

- データ入力ボタン[▼]を押すと、MIDI クロックが内部になります。ディスプレイに「cin」と表示します。



- データ入力ボタン[▲]を押すと、MIDI クロックが外部になります。ディスプレイに「cEt」と表示します。



- ◆ MIDI クロックを外部にした場合、必ず MIDI コントロールを ON にしてください。また、MIDI クロックが入力されないと録音／再生はできません。
- この設定は、電源を切っても記憶されます。

● MIDI コントロールの ON/OFF

MIDI コントロールは、MIDI システムリアルタイムメッセージ (クロック、スタート、ストップ、コンティニュー) の送受信を行うかどうかの設定です。

ON のときは、送受信を行うため、外部機器からリズムやディスクの再生操作が可能になります。また、外部のシーケンサーを操作できます。

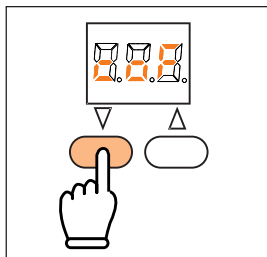
OFF のときは、送受信を行いません。

パネル音色[パイプオルガン]を押し、「パイプオルガン」のランプが点灯すると、MIDI コントロール設定状態になります。

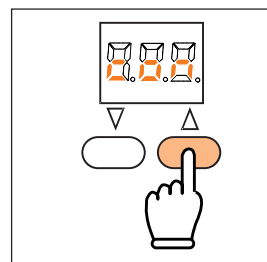


データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すと、MIDI コントロールの ON/OFF の切り替えができます。

- データ入力ボタン[▼]を押すと MIDI コントロールが OFF になり、ディスプレイに「coF」と表示します。



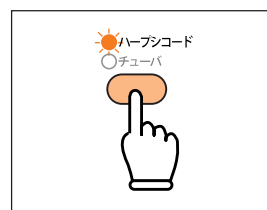
- データ入力ボタン[▲]を押すと MIDI コントロールが ON になり、ディスプレイに「con」と表示します。



- ◆ MIDI クロックを外部に設定した場合は、必ず MIDI コントロールを ON にしてください。
- この設定は、電源を切っても記憶されます。

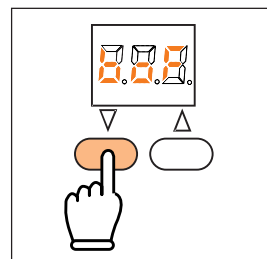
● ブレスコントロール受信の ON/OFF

パネル音色[ハーブシコード]を押し「ハーブシコード」のランプが点灯すると、ブレスコントロール受信設定状態になります。

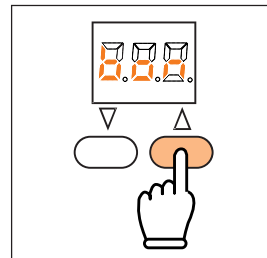


データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すと、ブレスコントロール受信の ON/OFF の切り替えができます。

- データ入力ボタン[▼]を押すとブレスコントロール受信が OFF になり、ディスプレイに「boF」と表示します。



- データ入力ボタン[▲]を押すとブレスコントロール受信が ON になり、ディスプレイに「bon」と表示します。

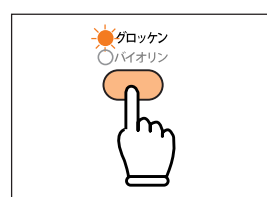


- ◆ ブレスコントロール受信が ON の場合、MIDI からのブレスコントロール情報をエクスプレッション情報として変換します。
- この設定は、電源を切っても記憶されます。

● 鍵盤トランスポーズの ON/OFF

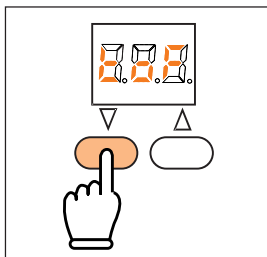
移調機能を使ったときのソング再生、MIDI からの受信情報と鍵盤の演奏への効果について設定します。

パネル音色[グロッケン]を押し、「グロッケン」のランプが点灯すると、鍵盤トランスポーズ設定状態になります。

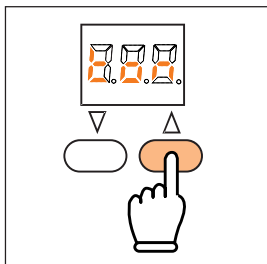


データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すと、鍵盤トランスポートのON/OFFの切り替えができます。

- データ入力ボタン[▼]を押すと鍵盤トランスポートがOFFになり、ディスプレイに「toF」と表示します。



- データ入力ボタン[▲]を押すと鍵盤トランスポートがONになり、ディスプレイに「ton」と表示します。



- 鍵盤トランスポートがONのときは、ソングで再生中に移調機能で音程を上下すると、鍵盤の音程も上下します。

例えばソングレコーダーで合唱の伴奏を再生中、歌に合わせて音程を半音下げると、オルガンの鍵盤の音も半音下がります。

- 鍵盤トランスポートがOFFの場合、鍵盤の音程は移調には影響されません。
- この設定は、電源を切っても記憶されます。
- 移調は、MIDIからの受信情報にも効果がかかりません。MIDIへの送信情報には効果はかかりません。

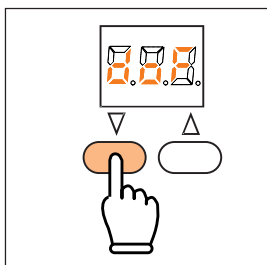
● バルクダンプ受信の ON/OFF

パネル音色[箏]を押し、「箏」のランプが点灯するとバルクダンプ受信設定状態になります。

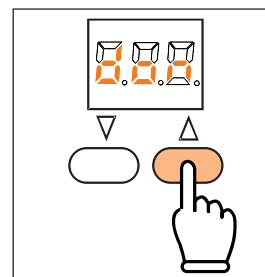


データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すと、バルクダンプ受信のON/OFFの切替えができます。

- データ入力ボタン[▼]を押すとバルクダンプ受信がOFFになり、ディスプレイに「doF」と表示します。バルクダンプを受信しても処理しません。



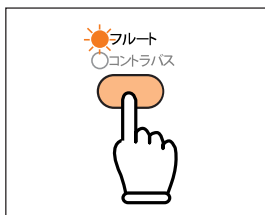
- データ入力ボタン[▲]を押すとバルクダンプ受信がONになり、ディスプレイに「don」と表示します。



この設定は、電源を切っても記憶されます。

● バルクダンプ送信

パネル音色[フルート]を押し、「フルート」のランプが点灯すると、バルクダンプ送信設定状態になります。

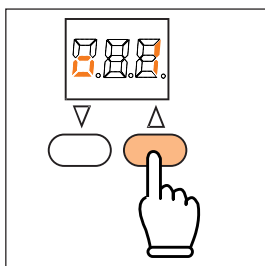


データ入力ボタン[▼]または[▲]を押すと、バルクダンプ送信する曲番の選択ができます。

- データ入力ボタン[▲]を押すと曲番表示が「0 A」、「0 1」と変化し、「0 1 0」まで選択できます。データ入力ボタン[▼]を押せば元に戻ります。

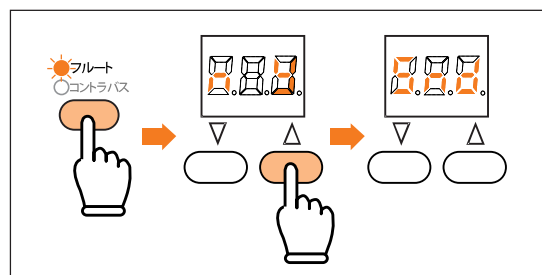
- 表示が「0 A」のときにはすべてのユーザーソングデータを曲番順に送信します。

- 表示が上記以外のときは、表示されている番号のユーザーソングデータを曲番情報なしで送信します。



- もう一度[フルート]を押すとディスプレイに「n y」が表示され、[▲]ボタンを押すとバルクダンプが送信されます。

送信が終わると「Snd」と表示されます（約1秒）。



- データ入力ボタン[▼]を押すと、表示は元に戻り送信はキャンセルされます。

- バルクダンプ受信中は送信できません。

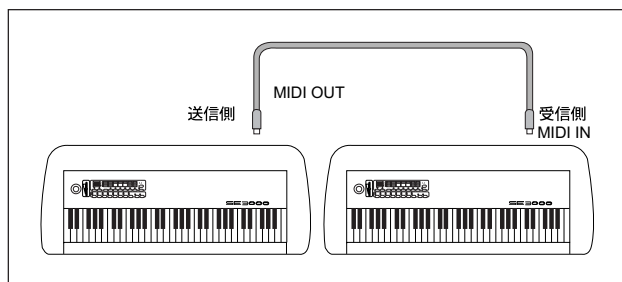
- ユーザーソングデータがない場合は送信されません。

● バルクダンプについて

SE-3000にはディスクドライブがないため、ソングデータのやりとりはバルクダンプを使います。これには、2つの方法があります。

1. SE-3000 同士で行う方法

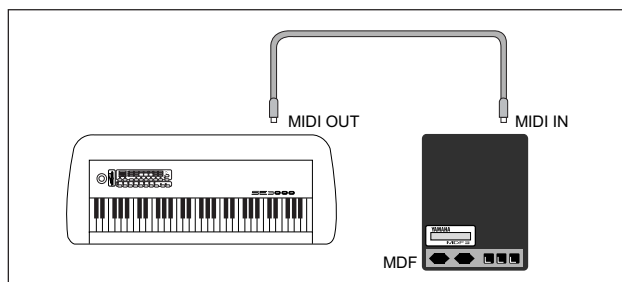
- 2台のSE-3000を図のようにMIDIケーブルで接続します。



- ⇒ SE-3000のHOST SELECTスイッチは、2台とも"MIDI"にセットしてください。(P.27)
- 受信側のSE-3000のバルクダンプ受信設定を「don」にします。(P.25)
- 送信側のSE-3000のバルクダンプ送信操作を行います。(P.25)
- 受信側では、空いている曲番に送信されてきたソングデータが書き込まれます。
- 受信側のSE-3000のディスプレイに「b 1」(数字は1～10。書き込み中の曲番)、続いて「rcE」と表示されたら、正常に受信終了です。
- ⇒ ● 空き曲番がない場合や、メモリーが一杯になった場合は「no」と表示し、データの受信は行いません。
- 送信側で「o A」にして全曲を送信した場合、受信側では同じ曲番のソングデータを消して、書き換えます。受信側のソングメモリーを送信側と全く同じにしたい場合は、まず受信側の全てのユーザーソングを初期化し(P.22)、その後、送信側から全曲を送信してください。

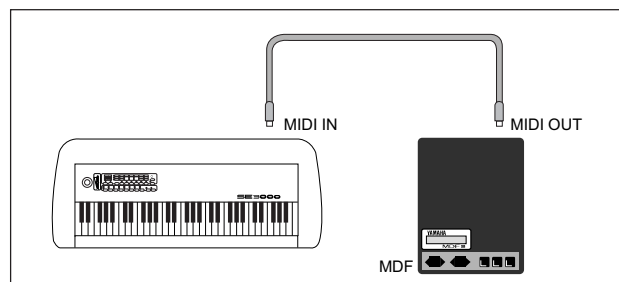
2. MIDI データファイラー (MDF) を使う方法

- ソングデータを保存する場合は、SE-3000とMDFを図のようにMIDIケーブルで接続します。



- ⇒ SE-3000のHOST SELECTスイッチは、「MIDI」にセットしてください。(P.27)

- MDFを記録可能な状態にし、SE-3000のバルクダンプ送信操作を行い(P.25)、MDFに記録します。
- ソングデータを受け取る場合は、SE-3000とMDFを図のようにMIDIケーブルで接続します。



- ⇒ SE-3000のHOST SELECTスイッチは、「MIDI」にセットしてください。(P.27)
- SE-3000のバルクダンプ受信設定を「don」にします。(P.25)
- MDFからデータを送信します。
- SE-3000のディスプレイに「b 1」(数字は1～10。書き込み中の曲番)、続いて「rcE」と表示されたら、正常に受信終了です。
- ⇒ ● MIDIデータファイラーの使用方法は、製品付属の取扱説明書をごらんください。
- バルクダンプデータは、スタンダードMIDIファイルなどのシーケンサデータではありませんので、外部シーケンサーに録音しても、演奏としての再生はできません。ディスクなどに演奏を録音したい場合は、ソングを再生しながら、外部シーケンサーに録音してください。

TO HOST 端子について

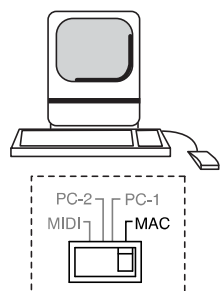
パーソナルコンピュータ上で動作する音楽ソフトウェアを使えば、SE-3000のコントロールをコンピュータで実行できます。曲データの再生や作成はもちろんのこと、自動的に音色を切り替えたり、画面上で音作りをしたりすることができます。

TO HOST 端子を使用する場合、接続するコンピュータの種類によって HOST SELECT スイッチを切り替える必要があります。

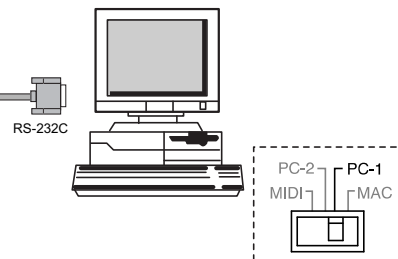
❗ 接続は、必ずすべての機器の電源を切った状態で行ってください。

TO HOST 端子の選択とコンピュータの接続

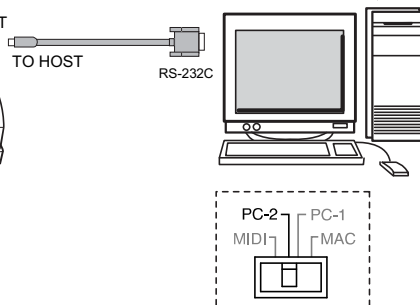
Macintoshシリーズ



NEC PC-9801/9821シリーズ



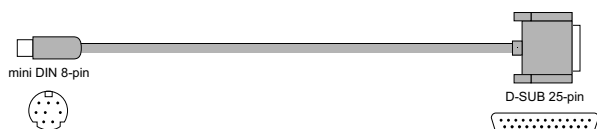
IBM-PC/ATシリーズ



接続ケーブル

● NEC PC-9801/9821 シリーズ

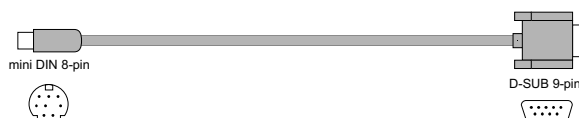
シリアルケーブル **YAMAHA CCJ-PC1/CCJ-PC1 NF** (市販品シリアルケーブル場合は、D-SUB 25P → MINI DIN 8P クロスケーブル) で、コンピュータの RS-232C 端子と SE-3000 の TO HOST 端子を接続します。
HOST SELECT スイッチは "PC-1" にセットします。



⇒ 使用するシーケンスソフトウェアによっては、ホストセレクトスイッチを PC-2 にセットしないと動作しないものがあります。

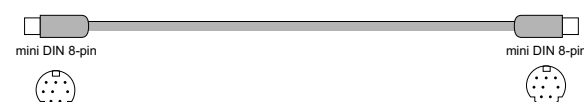
● IBM-PC/AT シリーズ

シリアルケーブル **YAMAHA CCJ-PC2** (市販品の場合は、D-SUB 9P → MINI DIN 8P クロスケーブル)、でコンピュータの RS-232C 端子と SE-3000 の TO HOST 端子を接続します。
HOST SELECT スイッチは "PC-2" にセットします。



● Macintosh シリーズ

シリアルケーブル **YAMAHA CCJ-MAC** (市販品の場合は、システムペリフェラルケーブル 8 ピン) で、コンピュータのモデムポート (またはプリンタポート) と SE-3000 の TO HOST 端子を接続します。
HOST SELECT スイッチは "MAC" にセットします。



⇒ 使用するシーケンスソフトウェア側で、MIDI インターフェースのクロックを 1MHz に設定してご使用ください。

使用するコンピュータやシーケンスソフトウェアでの必要な MIDI 設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

仕 様

音 源	AWM2 音源
同時発音数	最大 32 音
鍵 盤	61 鍵 C スケール (5 オクターブ)
音 色	全 128 音色 ■ パネル音色 16 音色 ピアノ、リードオルガン、パイプオルガン、ハーブシコード、グロッケン、箏、フルート、オーボエ、クラリネット、トランペット、ホルン、チューバ、バイオリン、ストリングス、コントラバス、ピッチカートバス ■ GM 音色 (→ P.2 GM 参照) 128 音色 (パネル音色 16 音色を含む) XG 音色 (→ P.2 XG 参照) 480 音色 (GM 音色 128 音色を含む) ※演奏にはパネル音色、GM 音色に加え、MIDI 入力により XG 音色も使用できます。
打楽器音色	パネル 9 ドラムキット 151 音色 XG 音色 11 ドラムキット 162 音色 (パネルドラムキットを含む)
リズム	10 種類 + メトロノーム 8 ビート、16 ビート、シャッフル、スウィング、マーチ、マーチ (6/8)、ワルツ、サンバ、ビギン、ボサノバ
ソング	ユーザーソング 10 曲 (約 6000 音)、デモソング 8 曲
効 果	ビブラート、リバーブ、コーラス
機 能	リズム、録音 / 再生、移調、チューニング、初期化、MIDI
コントロール	電源、全体音量、HOST SELECT
外部入出力	ライン入力、ライン出力、ヘッドホン、サステインペダル、MIDI (IN/OUT)、TO HOST
メインアンプ	最大定格出力 15W + 15W
スピーカー	フルレンジ 12cm (4 Ω) × 2
定格電圧	AC 100V
周波数	50Hz / 60Hz
消費電力	31W
寸 法	間口 101.1cm、奥行 46.0cm、高さ 82.2cm
質 量	27kg
仕上げ	本体部 ブルーメタリック塗装、脚部 シルバー半ツヤ塗装
付属品	椅子、取扱説明書、簡単操作ガイド、保証とアフターサービス (保証書) ※「保証とアフターサービス」には保証書が含まれていますので大切に保管してください。

● MIDI インプリメンテーションチャート

YAMAHA [学校用オルガン --- keyboard part]
 Model SE-3000 MIDI Implementation Chart

Date : 01-DEC-1999
 Version : 1.0

Function ...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 1-16	1 - 16 x	
Mode Default Messages Altered	3 x *****	3 x x	
Note Number : True voice	24 - 108 *****	0 - 127	
Velocity Note ON Note OFF	o 9nH, v=112 x 9nH, v=0	o v=1-127 x	
After Key's Touch Ch's	x x	x x	
Pitch Bend	x	o	
Control Change	0,32 1,5,7,10,11 6,38 64-67 71-74 84 91,93,94 96-97 98-99 100-101 120 121	x 1,7,11 o 5,10 x x 64 o 65-67 x x x x 91,93 o 94 x x x x x x x x x	Bank Select Data Entry Sound Controller RPN Inc,Dec NRPN LSB,MSB RPN LSB,MSB All Sound Off Reset All Cntrls
Prog Change : True #	o 0 - 127 *****	o 0 - 127	
System Exclusive	o	o	
: Song Pos. Common : Song Sel. : Tune	x x x	x x x	
System : Clock Real Time : Commands	x x	x x	
Aux : Local ON/OFF : All Notes OFF Mes- : Active Sense sages: Reset	x x o x	x o o x	
Notes:			

Mode 1 : OMNI ON, POLY
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY

Mode 2 : OMNI ON, MONO
 Mode 4 : OMNI OFF, MONO

o : Yes
 x : No

YAMAHA [学校用オルガン --- sequencer part] Date : 01-DEC-1999
 Model SE-3000 MIDI Implementation Chart Version : 1.0

Function ...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 - 16 x	1 - 16 x	
Mode Default Messages Altered	x x *****	x x x	
Note Number : True voice	0 - 127 *****	0 - 127	
Velocity Note ON Note OFF	o 9nH, v=1-127 x 9nH, v=0	o v=1-127 x	
After Key's Touch Ch's	o o	o o	
Pitch Bend	o	o	
Control Change	0,32 1,5,7,10,11 6,38 64-67 71-74 84 91,93,94 96-97 98-99 100-101 120 121	o o o o o o o o o o o o	Bank Select Data Entry Sound Controller RPN Inc,Dec NRPN LSB,MSB RPN LSB,MSB All Sound Off Reset All Cntrls
Prog Change : True #	o 0 - 127 *****	o 0 - 127	
System Exclusive	o	o	
: Song Pos. Common : Song Sel. : Tune	x x x	x x x	
System :Clock Real Time :Commands	o *1 o *1	o *2 o *1	
Aux : Local ON/OFF : All Notes OFF Mes- : Active Sense sages: Reset	x o o x	x x x x	
Notes:*1 Transmit and receive, if MIDI Control is on. *2 Receive, if external clock is selected.			

Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO o : Yes
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO x : No

メッセージ一覧

エラーが起きたときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。次の表でエラー内容を確認し、必要に応じて処置を行ってください。

表 示	原 因	処 置
FUL	メモリーの残り容量がなくなりました。	さらに録音したい場合は、初期化機能で録音済の曲を消去してください。(P.22)
Err	- MIDI または HOST 接続ケーブルが外れました。 - MIDI データが多すぎて正常に受信できませんでした。 - 受信したバルクデータにエラーがありました。	- MIDI 端子または TO HOST 端子にケーブルをしっかりと差し込んでください。 - データ量を減らしてください。 - もう一度受信をやり直してください。
NO	- ユーザーソングデータがなくて送信ができませんでした。 - バルクダンプを受信するためのメモリー容量がなくなりました。	- 録音してある曲番を選んでから送信してください。 - 録音済の曲を消去してください。

故障かな？と思ったら

故障ではないかと思いいなったら、下記の事項をご確認ください。それでも正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は電源を切り、電源プラグをコンセントから外して、お買い上げ店または別紙のヤマハ修理ご相談センターまでお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここが原因	こうすれば OK です
電源が入らない	本体から電源コードが抜けかかっている。	本体下側の電源コード接続口にコードをしっかりと差し込んでください。(P.7)
音がまったく出ない	エクスプレッションペダルが踏み込まれていない。	エクスプレッションペダルを適切な位置にセットしてください。(P.13)
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	ごく近くで電気器具の電源を ON/OFF したり、電気ドリルなどを使っている。	原因と思われる電気器具からなるべく離れたコンセントを使ってください。
ラジオやテレビなどに雑音が入る。	本機のごく近くでラジオやテレビなどを使っている。	なるべく離してお使いください。
音が割れる。(共鳴する、あるいはビリつく)	オルガンの音は持続音が多いため周囲の戸棚、窓ガラス、その他の器物に共鳴して音が割れて聞こえることがあります。	音量を小さくするか共鳴物を取り除いてください。
録音できない。	メモリーの残り容量がない。	録音済の曲を消去するか、メモリーの初期化 (P.22) を行なってください。
再生できない。	- 録音されていない曲番を選択した。 - 消去済みの曲を再生しようとしている。 - MIDI クロックが外部になっている。	- 録音されている曲番を選択しなおしてください。(P.16) - MIDI クロックを内部にしてください。(P.23)
録音済みの曲が消えてしまった。	バックアップ電池がなくなった。	お買い上げ店または別紙のヤマハ修理ご相談センターにバックアップ電池の交換をご依頼ください。

